

# フラワーガーデン



園芸総合センター  
田辺 和司

## コンテナガーデンのポイント

### 一 はじめに

プランターや植木鉢など植物を育てるための容器を総称してコンテナと呼んでいます。

コンテナは、置く場所や栽培したい植物に合わせてサイズやデザインを選ぶことができるし、移動も自由です。

このコンテナを利用して、草花や花木、観葉植物などを栽培し、花や緑を鑑賞するとともに住まいや周囲を美しく飾ることができ、コンテナガーデンの楽しみです。

### 二 設置場所

コンテナに寄せ植えしてから、さあ何処に置こうかと考えることも多いと思いますが、最初に飾る場所を決めれば、コンテナのサイズや色、デザイン、栽培する植物などもその場所に合ったものを選ぶことができます。

### 三 コンテナ

表 コンテナの種類と特性

種類	材料	長 所	短 所
プラ鉢	プラスチック	安価で軽く、こわれにくい。カビもつかない。	通気性・透水性がない。
素焼鉢	粘土	多孔質で、通気性・透水性がある。	重くて、こわれやすく、コケがつく。
駄温鉢	粘土	素焼鉢より劣るが、通気性・透水性がある。	重くて、こわれやすい。
化粧鉢	粘土	見ばえがよい。	高価で、通気性・透水性がない。
ウッドコンテナ	木	見ばえがよく、保温性がよい。	値段が高く、重い。防腐処理しないと腐りやすい。
トロ箱	発泡スチロール	廃物利用ができ、保温性がある。	見ばえが悪く、こわれやすい。
肥料袋	ポリフィルム	廃物利用容量が大きく、作りやすい。	見ばえが悪く、排水も悪い。日に当たるとボロボロになる。

コンテナは、設置する場所の広さ、栽培する植物、周りの景観などに合った物を選びます。

また、表のように材質によって使い勝手にもそれぞれ長所と短所がありますからそれらも考慮して選択します。

### 四 植物

植物は、コンテナとセットで考えます。置き場所が決まれば見る方向や日当たりの良否も決まりますから、全体の形、花の色、花期などを考慮しながら植物を選択します。また、できるだけ日照や水分条件

の似ている植物を選べば栽培管理がうまくいきます。

### 五 用土

用土は、通気性、排水性、保水性などに留意しながら植物に合わせて混合するか、市販の混合用土を購入します。

一般の草花は、田土や赤玉土六に対して腐葉土等二、四程度を混合して使用します。

さらに、通気性や保水性、肥持ちの改善

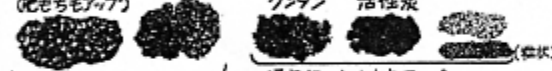


図 用土の種類と配合の基本

(農文協：用土と肥料の選び方・使い方より)

□ 植物用土を補う調整用土

- パーキュライト (肥もちもアップ)
- パーライト
- モミガラクワン
- ヤシガラ活性炭
- ゼオライト



- 通気性・水もちをアップ
- 有用微生物をふやす
- 腐葉土の代用
- 通気性・水もちをアップ
- 有用微生物をふやす
- 有害物質を吸着する

善などそれぞれにのびに応じてバ  
ーミキュライトやパーライトなど  
の調整用土を1~2程度混ぜれば  
より効果があります。

また、プラスチック鉢と併用す  
れば、コンテナ全体の重量をより  
軽くすることができて移動も楽に  
なります。

土や腐葉土の中にも植物の生長  
に必要な栄養分が少しは含まれて  
いますが、中でもチツソ、リンサ  
ン、カリの三成分は多量に必要な  
ことから肥料として与える必要が  
あります。

生育の初期から中期にかけて必  
要な栄養分は、元肥として緩効性  
肥料を予め用土に混ぜておきます。  
ただし、市販の混合用土には最初

から元肥相当分の肥料が入ってい  
るものもありますから、袋をチエ  
ックしておく必要があります。

また、生育期間や観賞期間が長  
い場合は、追肥として液肥や有機  
質肥料などを施肥します。

いずれも、肥料袋などに書かれ  
ている施肥量や液肥濃度に注意し  
てやり過ぎないようにします。

### 七 植え込み

まず、鉢底にネットを敷き、準  
備した用土を半分くらい入れます。  
そして、植える前に実際に並べ  
てみて配置を決めますが、一方か  
ら見る場合は奥側へ、周囲から見  
る場合は中央部へ草丈の高いもの  
を植え、次に草丈の低いもの、垂  
れるものの順に定植します。

また、ポットから取り出した時  
根がぐるぐる巻きになっているよ  
うな場合は、少し根を切つてやり  
ます。

根鉢と根鉢の間に用土を入れな  
がら植えますが、水やりのスベー  
スも考慮して用土はコンテナの8

### 八 栽培管理

日常的な管理で最も重要なのが水  
やりです。

用土の水持ちの良否、季節や植  
物によって必要な水分量は異なり  
ますが、用土の表面が乾いてきた  
ら鉢底から流れ出るまでたっぷり  
とかけるのが原則です。

水を与えずに用土の過湿状態  
が続くと酸素不足で根腐れを起こ  
してしまいますので、用土の表面  
が乾いてくるまで待ちます。

また、たっぷりとかけることで、用  
土全体に水分が行き渡るとともに、  
用土中の古い空気を追い出し、根に  
新しい酸素を送ることができま

### 九 おわりに

これまで述べたような基本ポイ  
ントを押さえておけば、あとは各  
人の好みです。

花色や全体のデザインを考えな  
がらコンテナガーデンを楽しんで  
ください。